

## 令和元年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和元年 10月2日

|    |     |     |               |      |     |       |     |
|----|-----|-----|---------------|------|-----|-------|-----|
| 校番 | 202 | 学校名 | 広島県立広島叡智学園中学校 | 校長氏名 | 林 史 | 全・定・通 | 本・分 |
|----|-----|-----|---------------|------|-----|-------|-----|

| 評価項目             | 評価 | 理由・意見   |
|------------------|----|---|
| 目標、指標、計画等の設定の適切さ | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○数値目標の扱いについては再度留意されてはいかがか(学習時間等)。</li> <li>○かなり計画的に行われている。</li> <li>○子供たちの状況、様子に応じた目標となっている。開校すぐであることを考えると、少しハードルが高くなっていると思うが、意欲的だと思うとありがたい。</li> <li>○一般的な学校とは大きく異なる学校として、生徒が個々に成長することを中心にした目標設定である。IB校としての視点も重視するとよい。</li> <li>○より高い次元の目標設定をしているがために、指標も高くなっている。志が高いことは良い。毎年度、今以上の学校づくりを目指して目標の調整してほしい。</li> <li>○「学びの革新」のモデル校ということもあり、非常に高度な目標が設定されているが、メリハリのついた内容であり、実現すべき指標に適している。</li> </ul> |
| 計画の進捗状況の評価の適切さ   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○良い点については明快に強調してもよい。スタッフのモチベーションにもつながる。</li> <li>○生徒の声をよく聞きながら判断してほしい。</li> <li>○進捗に関しては一定の評価である。評価に関してはもう少し甘めで良いのではないかと。</li> <li>○開校したばかりなので、数値よりもプロセスに視点を向けてもよい。</li> <li>○厳格な評価が行われている。これまで以上に、質的な評価を試み、具体的な状況を記載するように努めること。</li> <li>○実態を素直に評価している。一方、BとCに評価が偏っており中途半端な印象を受けた。</li> </ul>   |
| 目標達成に向けた取組の適切さ   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○特に現状で問題なし。</li> <li>○概ね良好である。</li> <li>○一生懸命にされているのは理解している。「安全・安心」の部分もしっかり取組をされているが…。ワークライフバランスについては難しいと思うが一層の配慮を行うべき。</li> <li>○工夫しながら様々な取組を行っている。</li> <li>○適切な取組が計画されている。もっと売りを強調してほしい。消極的にならず、強みを自己評価し社会に発信してほしい。</li> <li>○全体的に、学校立ち上げ時の業務の困難さがにじみ出ている。目標達成よりも学校自体の立ち上げが優先されていると感じる。</li> </ul>  |
| 評価結果の分析の適切さ      | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一部数値の内実をもう少し精査したらよい。</li> <li>○数値のみで判断をしないようにすべき。</li> <li>○数値的なエビデンスが取れる部分もしっかりしている。ただ、QUを行う時期はもう少し考慮したほうがよい。</li> <li>○生徒の実態を一番知っているのは先生である。厳しく客観的に分析することは大事だが、生徒が置かれている文脈、新しい取組を行っていることをプラスに考えてもよい。</li> <li>○厳格な評価に基づき分析もなされている。委員は、評価が行われた場面や状況を知りえないからこそ、状況の記述を詳しくすることで、子供たち、学校の状況から理由付けを行うこと。</li> <li>○項目ごとに細かく分析されているが、改善方法が見出し難い分析もある。</li> </ul>                                       |
| 今後の改善方策の適切さ      | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○特に問題なし。</li> <li>○改善に向けての方策がなされている。</li> <li>○「安心・安全」に関してもう少しほしい。生活面、学習面のどちらにも悩んでいる子供たちに寄り添う方策があるとよい。</li> <li>○物理的に、ゆとりの時間をどのように確保するのか?という点は、とても大きな課題であると思う。その具体的な策を考え実行することを期待する。生徒に向き合う時間は大切である。</li> <li>○業務改善の項目が懸念される。労働時間が超過する傾向に対する改善策を提案すること。現状は実態追認で残念である。</li> <li>○目標の中には、具体的な改善方法が提示され難い項目もあり、改善方法と合わせて目標自体の見直しも並行して検討すべき。</li> </ul>  |
| 総合評価             | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的に特に問題なし。</li> <li>○概ね適切である。生徒の声を聞く必要がある。</li> <li>○一生懸命生徒たちのことを見て考えていてありがたい。なので余計に先生方の生活が心配である。</li> <li>○教職員があらゆることに対して全力で取り組んでいる。</li> <li>○教職員の自由な空気、良好な関係を、これまで以上に追及すること。求めたい人間像、つくりたいコミュニティを学校の中に体現するためにも、自由闊達な校風を、この最初の数年で確立すること。</li> <li>○開校時で試行錯誤が続く中で、課題も多いながら頑張っている。</li> </ul>   |